

新編相模國風土記稿 卷之四十八

大住郡 卷之七 糟屋庄

中原上宿

中原下旬

南原村

平塚宿

平塚新宿

徳延村

朝氏村

久松村

松延村

根坂間村

河内村

公所村



新編相模國風土記稿卷之四十七

大住郡卷之七

糟屋庄

中原上宿

中原下宿

南原村

平塚宿

平塚新宿

徳延村

朝氏村

久松村

松延村

根坂間村

河内村

公所村

新編相模國風土記稿卷之四十九

村里部

大住郡卷之八

糟屋庄

上吉澤村

下吉澤村

千須谷村

廣川村

片岡村

土屋村

五分一村

上大槻村

下大槻村

南矢名村

北矢名村

南金目村

北金目村

村里部

大住郡卷之七

糟屋庄

中原上宿奈可波良中原下宿奈可波良此二宿

八。古中原村加美之久或ハ中原町ト唱へ。一村ナリ。明曆二

年。上下二宿ニ分テ。元禄八年。又合テ中原村ト稱

ニ。其頃モ村ノ割付ノ書ハ。二冊トシ。中原村上中
原村下ト記シ。又ハ中原村某組ナト書セリ。

寶曆四年。再々二宿ニ分テ。今ニ至ルト云。一説ニ。

上宿ハ。慶長年中。當所御殿御造營ノ後。豊田本郷

村ノ民。開墾シテ移住ス。故ニ豊田新宿トモ。唱ヘ

シトイヘリ。北金目村土人ノ傳ヘニ。慶長十三年

豊田村清雲寺ニ入御アリテ。休マセラル。然ニ此

年洪水ニテ。彼寺ニ入御ナリテ。難カリシ故。明ル十

四年。中原御殿ヲ建サセラル。是ニ依テ豊田村ノ

農民。中原上宿ヲ開キ移住ス。故ニ當時ハ。中原上

宿ヲ。豊田新宿ト云。此二宿ノ境界。犬牙シテ。分別ス

ヘカラス。故今爰ニ合載ス。江戸ヨリ十五里餘。東

西十八町。南北十二町。東八幡川ノ界。入野長持二

村。南平塚宿。北新土村。及玉民戸百二十。上宿七十

川ニ限。平等寺。宮下二村。中原道トニ連住セリ。北條

五。多クハ往還稱スル是ナリ。氏ノ頃ハ。畔田半四郎知行ス。役帳曰。六十七貫三

田半四郎。此内五十貫三。今上宿ハ御料ニシテ。入

百五十文。癸卯檢地増分。料ノ時ヨリ。御下宿ハ御料。及若林六郎左衛門

寛文以前。九毛五郎兵衛。天政十一年。拜賜等ノ

知行夕リ。天正十八年。御打入ノ時。當所ヲ過ラセ

ラル。故老諸談曰。關東御入國ノ時。東照宮ハ常
御遊ニテ。道中ノ御供計ニテ。中原ヨリ御放鷹ノ
子御巡見ナサル。様文祿元年。肥前國名護屋陣ノ

時。東國及奥羽。二州ノ諸軍ヲ將テ。二月四日。當所

ニ著御アリ。家忠日記追加曰。二月二日。秀吉朝鮮

援給ハ。ンカ為。江戶ヲ御首途アリ云々。四日。中原

ニ着御。五日。小田原着御。大三川志曰。二月二日。秀

吉。肥前名護屋ヘ。張陣ニヨツテ。神祖東國奥羽

二州ノ諸士。上杉景勝。伊達政宗。南部信直。佐竹義

宣等ヲ率ヒ。江府ヲ發シ。三年九月。逸見左衛門尉

義次。當所ニ居住スヘキ由命セラル。然ルニ義次

病ニ依テ。同月十三日歿ス。北條安房守。旗下ニ屬

ス。文祿元年。肥州名護屋ニ於テ。汝カ領内ニ置。朝夕

子義助ニ命セラレテ。義次ヲ汝カ領内ニ置。朝夕

孝行致スヘシト。ノ上意ナリ云々。同三年九月。駿

府ニイタル時ニ。大権現大父保石見守ニ仰テ。然ル

義次ヲ相州中原ニ居住セシムヘシトナリ。病死。四

ニ義次ヲサヒハナラシメテ。同月十三日。病死。四

十八。法名傳永。逸見家譜曰。小四郎。左衛門義次。文

祿元年。被召出。大三川志曰。文祿元年。四月。神祖

名護屋。供奉ノ内。逸見彌吉。義助ヲ召レ。相州中原

ノ米地ヘ。汝カ老父。四郎。左衛門義次ヲ。寓居セシ

メ。孝養ヲ盡スヘシト。命シ給フ。人皆其仁惠ヲ稱

ニ奉ル。按スルニ。大三川志ニ。文祿元年。逸見義助

ヲ命セラレ。父義次ヲ其米地當所ニ居住セシメ

テ。命セラレ。父義次ヲ其米地當所ニ居住セシメ

テ。命セラレ。父義次ヲ其米地當所ニ居住セシメ

命ニ汝カ領内ニ置テ云々トアルハ他所ナルヘ
シサレハ三年ニ至テ更ニ當所居住ヲ命セラレ
リ。元和元年十二月。東照宮當所ニテ。故鷹セ

ラル。駿府記曰。十二月。又何ノ頃ニヤ。伊達政宗攝
州大坂ニ赴ク途中。此邊ニテ。故鷹セシヲ。旗下士。

大岡忠左衛門某禁止セシ事アリ。明良洪範曰。大

極メテ忠實ノ人ナリシカ。伊達政宗攝州大坂ヘ

登ルトテ。途中相州中原ニテ。故鷹セラレシ所ニ

此所ハ。神君ノ御鷹場ナレハ。大岡忠左衛門ヲ

差置レケル。此事ヲ聞ト。鎗ヲ提テ。來リ。貴客ハ

徳川家ノ鷹場ヲ御存アリテ。此狼籍ニ及フ事甚

通ニテハ。一分立申サス候間。早々我首取テハ。政

家康ニ見セラルヘシト。大ニノケレハ。政

宗甚以迷惑シ。色々陳謝シ。徳川家ヘハ。我等ヨ

リ。ヨク申譯致スヘシト。漸大岡ヲ申ナタメ

大坂ヘ至ル云々。按スルニ。大岡系譜ニ。忠左衛門

ト稱セシ者見エス。恐クハ忠右衛門ヲ誤リシナラ

ン。忠右衛門ハ。檢地ハ。寛文九年。成瀬八左衛門

御料所ヲ改ム。若林氏知行ハ。古檢地ヲ。其後延

寶二年。成瀬五左衛門重治。享保十七年。寛播磨守

正鋪新田ヲ糾セリ。宿内ニ往還三條アリ。大山道。

幅二間。大磯道十日市場。曾谷村道ナリ。又古街道

下同。

幅ニ一稱スル一條アリ。江戸往還ニシテ爰ニ一
 里塚。高ハ尺許。相對シテアリ。一里塚ヨリ大磯宿へ
 村民金左衛門ト云者。醋ヲ造釀セシヲ。時ノ縣令
 成瀬五左衛門重治公ニ奉レリ。故ニ是ヲ成瀬醋
 ト。稱セラレシト云。何ノ頃カ其事止テ。今ハ造釀
 スルモノナシ。金左衛門ノ子孫。今モ村民タリ。其
 ニ勝レテ味美ナリシカハ。公ヨリ其製ノ例ニ
 タルヲ尋ラレシニ。今年ハ京師ヨリ製法ニ精キ
 者ヲ呼テ造ラシメシ。由。谷へ奉ル。然ルニ。當所ノ
 ハ。都テ賞觀ヲ失。ベリトテ。是ヨリ奉ル事ヲ止
 メラレシト云。今モ當時造釀セシ器ヲ藏ス。止

高扎場

小名 上宿 御殿町 仲宿 田端
宿以上上 宿ノ属

下宿 裏宿
宿以上下 宿ノ属

御林十六ヶ所 當宿。及平塚宿。同新宿。入會ノ地

ニテ。所々ニ散在ス。都テ百二十六町。九段二畝五步。此邊ハク

村 當宿上下。及平塚宿。同新宿。ハニテ預レリ。落葉

下草等ヲ。苜ヲ以テ。各但慶長六年。伊奈備前守
 村ヨリ永錢ヲ貢ス。

忠次奉リテ。松樹ノ御林トス。此内字御殿地ト
稱スル御林ハ。元祿十年。植付アリシト云。御林
中ニ。高札十三所建リ。

玉川 西北ノ方下宿ヲ流。幅八古ハ平等寺村境

ヲ流レ。入野村境ニ至リ。南流シテ金目川ニ合

セシヲ。水理不便ナルニヨリ。享保七年。今ノ如

ク水路ヲ改メラル。土橋一ヲ架ス。長十間。大繩橋ト呼フ。

鈴川 是モ下宿ヲ流レ。南原村境ニテ。玉川ニ合

ス。幅六。兩岸ニ堤アリ。尺高九。又此川ヲ堰入テ。字

川久保ニ。水車ヲ設ク。文政十一年。公ニ願テ始テ造ル。村民清右衛門又

之丞ニ人ノ持。

谷川 上宿ニアリ。幅九末ハ玉川ニ落

山王社 上宿ニアリ。両宿ノ鎮守ナリ。幣殿拜殿

等アリ。神躰東帶像。長三又山王二十一社ノ種

字ヲ書セル木扎アリ。裏書曰。此朴捨者。當國當郡下吉澤住僧。從十八歲

當地密藏院ニ在留而學問増進之後。遂楚山住山其後岡崎金剛頂寺ニ移住而法談成就。中原得

願寺ヲ建立而隱居仕候處ニ其以後西郡金子
 最明寺ニ移住。今年法談成就申刺。當地御殿
 而山王廿一社之種字捨納置者也云々。寬永十
 七庚申十二月朔日。法印大阿闍梨聖應華押。按
 スルニ文中密藏院ト云ハ。後廢寺トナリ。其號
 ノ以テ。今別當寺。本地佛藥師。行基作。神躰ノ胎
 ノ院號トセリ。古八字御殿後ニ在。今ニ舊地ニ稱ス。神木アリ。其
 地ニ當社除地ノ内ニ。寬永十七年十二月。當所
 御殿慶長元年。御造ノ。鬼門鎮護ノ為。今ノ地ニ
 移サレシト云。按スルニ。前ニ註記セシ。木札裏
 ナリ。祭禮六月十五日。隔年ニ十四日。神輿宿中
 屋ニ止リ。明ル十日。五日午時歸座。

鐘樓 鐘ハ慶安四年鑄造ス。銘アリ。

松樹 神木ナリ。二圍半。

末社 天滿宮 稻荷 痘瘡神 天王

寮 彌陀ヲ置。

別當得願寺 寶臺山密藏院ト號ス。古義真言

宗。平塚新宿。等開山。扑捨聖應。辛年詳ナラス。本社ニ木札ヲス。

納メシ。隱栖ノ地トシテ起立ス。中興開山聖僧ナリ。明和四年五月廿九日卒。本尊十一面觀音。行基作ノ釋賢。月秘。佛。

大松寺 上宿ニアリ。樹傳山稱名院ト號ス。浄土

宗。芝増上。開山松風靈巖。檀蓮社雄譽ト號ス。駿

戸深川靈巖寺ノ開山ナリ。寛永八年九月朔日卒。開基曾根玄蕃。慶長十

月十四日卒。法名三寶院。穩譽浄安。子孫旗下次ノ

ノ法名ヲ。按スルニ。寛永曾根系譜ニ。孫兵衛長次

ノ法名ヲ。淨安ト載タレハ。玄蕃ハ孫兵衛ノ初

關東御打入ノ後。伊豆國ノ代官ヲ奉リ。後駿州

山西ノ代官トナル。六十五歳ニシテ病死セリ。

本尊阿彌陀。鎮守社 天満宮。稻荷。及毘沙門ヲ置

慈眼寺 下宿ニアリ。下ニク。慈雲山ト號ス。法華

宗。身延久。天正二年起立。當時ハ禪宗ナリ。二世

日惠。慈眼院ト號ス。寛永。當宗ニ歸依シテ。改宗

シ。其師日新。慈雲院ト號ス。本寺十七世。ヲ請テ

開山トス。慶安二年八月。先規ニ依テ。寺領五石

九斗ノ御朱印ヲ賜フ。本尊三寶祖師。寺寶二十

界勸請ノ曼陀羅アリ。日蓮筆ナリト云。傍記ニ天正二十壬辰曆。卯月八

日。身延十七世日新華押。相州中郡豐田。慈雲山慈眼寺。慈眼院日惠授與トアリ。

天神社 妙正明神社 稻荷社 元境外御朱印地ノ内ニアリ。

七面堂 三十番神ヲモ安ス。

妙行寺 通心山ト號ス。本寺前ニ同當寺ハモト

菴室ニテ。寛永六年。妙行ト云尼 村民ノ女。寛文四年二月死。法

名日。起立シ。則妙行院ト號ス。其頃本山住持ニ

世。日遠。一救本尊ヲ與フ。善條院妙行日理ハ授

與トアリ。院號法 其後寛文九年。日護任持ノ時

本山ヨリ。山寺號ヲ與ヘテ。一寺トナス。故ニ日

護 亮心院ト號ス。元禄 ヲ開基トス。本尊十羅刹

女。及宗法ノ諸佛ヲ安ス。寺寶ニ曼陀羅一幅 文

八辛卯九月二日ト記ス。アリ。本山ヨリ授與ノ物ト云。

東嶽院 醫王山下號ス。臨濟宗。 豐田本郷村。清雲寺末。 開山

樂林。 文明十三年七月十一日辛。 本尊藥師。 行基作。秘佛。

稻荷社 疱瘡神社

閻魔堂

觀音堂 正觀音ヲ安ス。村持。

地藏堂 村民ノ内庵ナリ。

御殿蹟 宿ノ中程ヨリ。西ノ方九十六間ヲ隔テ

アリ。廣七十八間。表五十六間。東ヲ表トス。四方

堀幅六アリ。是ハ古御鷹狩等ノ時。御止宿アリ

リ。御旅館蹟ナリ。慶長年中ノ御造營。按スル

山王社傳ニハ九年御造營トアリ。北金目村ノ

傳ヘニハ十四年。建サヒラルト云。一決シ難

シサレト。豐田本郷村。清雲寺ノ傳ヘニ。四年ニ

月十日。此御殿ニ御逗留アリトイハル。元年ト

云ヲ得タリトセンカ。當所ノ民。庄右衛門カ先

祖小川某。此邊ノ地理ニ精キヲ以テ。御殿御繩

張ノ時。御案内。中原御殿ト稱シ。一ニ雲雀野ノ

御殿トモ唱ヘシナリ。東照宮此御旅館ニ渡

御アリシ事。諸書ニ所見アリ。慶長十年十月。津

井縣牧野村。舊家五郎助所藏家譜曰。佐藤新八

郎德氏。父。棟原德兼。慶長十年十月下旬。中原御

東照宮。伏見ヨリ。江戸へ渡御ノ節。相州中原御

旅館ニ於テ。德兼父子御目見仰付ラレキ由。

御出 十一年十一月。十一月下旬。伏見ヨリ江戸

旅館ニテ。佐藤新八郎徳氏。御目見亡父徳兼十

二年十月。駿府ヨリ。江城ノ御成ノ時。中

十月。駿府記曰。十月六日巳刻。為御放鷹。赴關東

茂助。松平右衛門佐。後藤千三郎。其外供奉輩不

可勝計。十日御着中原。安藤對馬守。依幕府之仰

來。御膳以下。役相勤之。翌日御逗留。十二日相模

川邊。出御。依雨降。還御。御逗留。創業記考異曰。十

月十日。中原三日。御逗留。十一月。御止宿ノ夜。僧莊

留。家忠日記。追加同。保曆間記ヲ讀シテ。給。十九

鷹野。御着中原。今日若鷹始撃。白鳥。依之御氣色

快然。及夜録倉莊。嚴院。保曆間記。持參。於御前讀

之。其外録倉中。舊十七年十二月。此時伊達政宗

蹟之有御雜談。鷹二居ヲ賜フ。身享伊達家書上曰。十二月

成候。中原ヲ御立。被成候。砌。雁ノ御鷹野。被為

捉送物ノ御鷹二居。拜領仕候。十八年九月。駿府

日。中原御着云々。御鷹野。駿府御逗留。云々。二十

日。御逗留云々。二十五日。藤澤着御村越。道伴覺

書曰。九月。御鷹野。駿府記曰。三日辰刻。江戸

狩。關東被准。御鷹野。十二月。大駿府記曰。三日辰刻。江戸

毛。五日。明筋御巡見。渡御。中原之由。御動座。着御。縮

中原。從京都。板倉伊賀守。飛脚到來。堺政所。細川

喜三郎。頓死之由。言上云々。七日。從幕下為御使。者。拔倉周防守重宗。于中原參着。御有物被進之。十三日。俄自中原。江戶可有還御之由。御被刺。御動座申刺。稻毛渡御。是ハ未無御執。飼蒼鷹數。多有之故。來正月。上總國土氣東金。可有御鷹野。之由。村越道伴。覺書曰。十二月。月上旬。駿府可被成。御歸城之旨。被仰出。中原迄御越興。於此所如何。被思召候哉。當暮於江戶御越年。可被成。旨上意。也。中原御出駕。夜。此時馬場八左衛門ト云七ノ。中。小菅御着興。

大久保相換守忠隣力。異心アル由ヲ言上セリ。

家忠日記追加曰。十二月六日。大神君中原。着御。此日人アリ。其名ヲ馬場八左衛門尉ト云。大久保相換守忠隣力。異心アル由ヲ問ハシ。

給十九年正月。駿府記曰。二十三日出。御藤澤申。日。中原出御。路。元和元年十月。午刻。駿府城出御。次。御鷹野云々。中原渡御。六日。中原御逗留。七日。同。御逗留。八日。藤澤着御。按スルニ。家忠日記。追。加。慶長十九年ノ條。十二月。此時御逗留中。稻垣。係。久。誤ナルハシ。

推右衛門某ヲ誅セラル。又井伊掃部頭直孝ニ。

御感書ヲ賜フ。四日辰刻。大御所江戶御動座。放鷹云々。八日。中原御逗留。云々。九日。同。御逗留。行當。御鷹損スル。依テ也。十二日。終日。雪降。御。逗留。云々。十三日。中原出御。家忠日記。追加曰。十。

逗留。云々。御鷹損スル。依テ也。十二日。終日。雪降。御。逗留。云々。十三日。中原出御。家忠日記。追加曰。十。

二月四日。大神君江戸ヲ出給フテ。稲毛ニ着御。六日中原ニ着御。十一日井伊直孝ノ戦功ヲ褒セラレ。御以上皆御止宿アリシナリ。又何レ感書ヲ賜ル。以上皆御止宿アリシナリ。又何レ

ノ年ニヤ。御止宿ノ夜。御旅館ニ盗賊入レ事ア

リ。武功雜記曰。相模ノ中原へ。推現様御泊。鷹

以野ニ渡御ノ時。寂早御寢所へ入ラセラレ候

院殿見付申サレ。御庭ヲチラト通リ候ヲ。永松

意被成候。其夜御殿中へ。盗人入候ヲ。銀ノ御釜

ヲ盗元和三年二月。日光山へ御改葬ノ時。

神柩當所ニ宿セラル。元和日記曰。二月十五日。

原ニ至ル。二十一日。靈柩武州府中ニ到ル。其

後廢セラレシ。年代詳ナラス。今ハ御林トナレ

リ。其中ニ東照宮ヲ勸請ニ奉ル。四月十七日

ニハ。山王別當。得願寺住僧法樂ニ奉ル。上下二

宿ノ持。御宮ノ傍ニ老杉一樹。圍一丈アリ。御

神木ナリ。

陣屋蹟。上宿ニアリ。元禄十年。代官平岡三郎右

衛門。建。其後廢セシ年代。詳ナラス。按スルニ正徳

三年迄。陣屋地。年貢高役等除カレ。同年増井彌
五左衛門。支配トナリシ時。上宿ノ持トナ
リシ事。記
録ニ見ユ。

屋鋪蹟二 一ハ上宿ニアリ。坪井次右衛門良充

カ居蹟。一ハ下宿ニアリ。成瀬五左衛門重治カ居

蹟ナリ。共ニ寛文九年。檢地
シテ高入トナル。

密藏院蹟 所在ノ地。詳ナラス。山王社別當得願

寺開山朴念若年ノ頃。此院ニテ學問セシ事。同

社ニ藏スル。木札ニ見エタリ。後廢ニテ其號ヲ
以テ。得願寺ノ院號トス。

宰屋蹟 上宿ニアリ。寛文九年。檢地ノ時モ。除地
ニアリ。今ハ得願寺持ナリ。

南原村

美奈三波 羅年良

江戸

ヨリ十五里餘戸數三十

三。廣五町半餘。表九町餘。東中原下宿西金目川

及朝氏河内二村。淘綾郡山下村。南平塚。今小笠原

宿北玉川ヲ境。當郡長持村。中原下宿。及竹尾戸市

若狹守信名郎古御料所。享保ノ頃御料。等知行止。

其後都テ御料トナリ。文政知行ス。檢地ハ萬治四

年ニ糾セリ。村西ヨリ東ニ通シテ。中原道幅一丈。

係レリ。此道ノ内。金目川ノ邊ニ至リ。幅一間許ニ

狹マリシ所。鎌倉古街道ナリト云。東照宮駿府ヨ

渡御ノ時ハ。此道御通。又南方ヨリ入一條ハ。十日
行ナリシト云傳フ。市場曾谷村道ナリ。村内ニテ前路ニ合シ。又別レ
テ。乾ノ方ニ達ス。

高札場

小名 宮下 横宿 上合 東町 鍛冶町

金目川 村西ヲ流ル。幅ニ十間。古ハ北方入野村ニテ。

鈴川ニ合セシカ。寶永三年命アリテ。入野長持。

及當村ニ。新川ヲ掘テ疏通ス。川添ニ水除堤高

丈ニアリ。

玉川 北ヨリ西ヲ流ル。幅十間。モトハ玉川鈴川北

境ニテ合シ。直ニ金目川ニ落合シ故。逆流シテ。

シバニ水溢アリシカハ。享保七年新ニ此川ヲ

掘。乾ノ方ヨリ。下流ハ新川ニ。玉川鈴川ノ二流

ヲ落セリ。此川ト金目川ノ間。六十間計ヲ隔ツ。

ト云。故ニ土人新川トモ唱フ。土橋長十架

ス。水除堤高前アリ。

用水堀 乾方ニテ金目川ヲ堰入。掛樋長三十間。

以テ玉川ヲ越シ。田間ニ沃ク。幅六尺。

池二 南方平塚宿ニ跨リテアリ。共ニ洪水ノ時。

水流ノ跡。池トナリシナリ。一ハ東西三十一間。南北三十五間。一ハ

東西三十間。南其ハ文政十一年ノ洪水ノ跡

ニテ。新池ト呼ビ。又是ニ對シテ。一ヲ古池ト稱

ス。

諏訪社 村ノ鎮守。例祭七月二十一日。村持下同

鐘樓 寛延三年鑄造ノ鐘ノ銘文ニ當社及神明ノ寶前ニ掛シ由載

多掛。

末社 稻荷

松樹 神木ナリ。圍一丈五尺。

神明社 例祭九月十六日

山王社 例祭六月十五日

善徳寺 南原山永琳院ト號ス。浄土宗。芝増上院

山善徳徹巖。大蓮社廣譽永琳ト號ス。此僧俗稱

天正二年正月二日卒。

大館玄蕃

子孫今村民タリ。

ト云。甲州ノ人ニテ。一旦松

延村ニ住シ。後村内ニ移リテ。當寺ヲ開ケリ。當

時ハ庵室ナリシカ。後一寺トナスト云。中興開

山忍恕。

慈蓮社亨譽ト號ス。明和六年十月廿二日卒。

本尊阿彌陀寺寶

舍利塔一基アリ。

徹巖其師存貞ヨリ。得タル物ト云。

天満宮

地藏堂

平塚宿

比良郡可忘久

東海道宿驛ノ一ニシテ。

江戸日

本橋ヨリ十五里半。土人云。往昔高見王

桓武天皇三代孫。

ノ子政子。東國ニ下向アリ。天安元年二月廿五日

逝ス。其柩ヲ當所ニ埋メ。一堆ノ塚ヲ築テ印トス。

今要法寺境。其塚上平カナルヨリ。地石起レリト。

内ニアリ。按スルニ。此事土人ノ口碑ニ。此地宿驛トナリシ。

傳フルノミ。未考ル所ナシ。始メ詳ナラサレト。古書ニ往々所見アレハ。舊ク

置レシ事論ナシ。後世正保元祿ノ頃ハ。平塚村ト

稱_ス。正保元_ノ。其後宿_ト改_メシ。年代詳_ナラ_ス。按_ス。元_ノ文中_ノ物_ニ。平塚_{建久ノ}頃。曾我祐成兄弟_ノ父_ノ所_ト記_セシ_{アリ}。

仇工藤祐經_ヲ討_{ント}。此邊_ニ徘徊_シテ。便宜_ヲ窺_フ。

。重須本曾我物語曰。佐河古宇津方。憑遊_君通_付。其路次_ヲ習_テ。敵待_受可_有事。當時助經_自伊豆上_ニ鎌倉_有時。又自鎌倉下_ニ伊豆_有時。懇敵_吉可_便宜_語細_細。

倉十郎_有佐尋宿_々。建久二年_{辛亥}年。自十一月上旬_頃。曾我十郎助成_被諫_弟五郎時宗_自小田原宿

始_至佐河古宇津_滋美_小磯_平塚宿_三浦_鎌倉_尋所_所。與_心无_女人_云々_又曰。鎌倉殿_重被_仰下_其何_助經_自伊豆_通鎌倉_事。差_賀一月_有四五_度十_度何_今不_不。五郎兼_之。佐候_此五六_箇年_立住_足柄_管根_佐河古宇津_大磯_小磯_平塚宿_由井_小坪_邊候_日夜_朝暮_候。敵_大勢_或時_七八_十騎_或時_百騎_計。券_其定_行。五六_十騎_候申_我々_身。列_時只_二人_无。佐_時只_一人_候。行_合事_間差_賀。

心_存武_候佐_止候_。弘安五年九月_日蓮_身延_山ヨ

リ。武州へ赴_ク時_。此所_ニ止_宿ス。註_畫贊_曰。九月八日_。十六_日平塚_。康曆二年三月_。義堂當驛_ニ至_ル。是京師_ニ赴_ク時_。日_工集_曰。三月三日_。發_相陽_送者_緇素_而還_之。永享十二年八月_。結城亂_ノ時_。今川上總介_。

當所_ニ出張_ス。是御所方_。大森伊豆守_。平塚_。在_ヲ押_ノ為_ナリ。鎌倉大草紙_曰。管根_ノ別當_。大森_。伊豆守_元來_無二_ノ御所方_ナリ。

云_。十六_日平塚_。康曆二年三月_。義堂當驛_ニ至_ル。是京師_ニ赴_ク時_。日_工集_曰。三月三日_。發_相陽_送者_緇素_而還_之。永享十二年八月_。結城亂_ノ時_。今川上總介_。

云_。十六_日平塚_。康曆二年三月_。義堂當驛_ニ至_ル。是京師_ニ赴_ク時_。日_工集_曰。三月三日_。發_相陽_送者_緇素_而還_之。永享十二年八月_。結城亂_ノ時_。今川上總介_。

云_。十六_日平塚_。康曆二年三月_。義堂當驛_ニ至_ル。是京師_ニ赴_ク時_。日_工集_曰。三月三日_。發_相陽_送者_緇素_而還_之。永享十二年八月_。結城亂_ノ時_。今川上總介_。

云_。十六_日平塚_。康曆二年三月_。義堂當驛_ニ至_ル。是京師_ニ赴_ク時_。日_工集_曰。三月三日_。發_相陽_送者_緇素_而還_之。永享十二年八月_。結城亂_ノ時_。今川上總介_。

云_。十六_日平塚_。康曆二年三月_。義堂當驛_ニ至_ル。是京師_ニ赴_ク時_。日_工集_曰。三月三日_。發_相陽_送者_緇素_而還_之。永享十二年八月_。結城亂_ノ時_。今川上總介_。

云_。十六_日平塚_。康曆二年三月_。義堂當驛_ニ至_ル。是京師_ニ赴_ク時_。日_工集_曰。三月三日_。發_相陽_送者_緇素_而還_之。永享十二年八月_。結城亂_ノ時_。今川上總介_。

云_。十六_日平塚_。康曆二年三月_。義堂當驛_ニ至_ル。是京師_ニ赴_ク時_。日_工集_曰。三月三日_。發_相陽_送者_緇素_而還_之。永享十二年八月_。結城亂_ノ時_。今川上總介_。

云_。十六_日平塚_。康曆二年三月_。義堂當驛_ニ至_ル。是京師_ニ赴_ク時_。日_工集_曰。三月三日_。發_相陽_送者_緇素_而還_之。永享十二年八月_。結城亂_ノ時_。今川上總介_。

云_。十六_日平塚_。康曆二年三月_。義堂當驛_ニ至_ル。是京師_ニ赴_ク時_。日_工集_曰。三月三日_。發_相陽_送者_緇素_而還_之。永享十二年八月_。結城亂_ノ時_。今川上總介_。

云_。十六_日平塚_。康曆二年三月_。義堂當驛_ニ至_ル。是京師_ニ赴_ク時_。日_工集_曰。三月三日_。發_相陽_送者_緇素_而還_之。永享十二年八月_。結城亂_ノ時_。今川上總介_。

云_。十六_日平塚_。康曆二年三月_。義堂當驛_ニ至_ル。是京師_ニ赴_ク時_。日_工集_曰。三月三日_。發_相陽_送者_緇素_而還_之。永享十二年八月_。結城亂_ノ時_。今川上總介_。

云_。十六_日平塚_。康曆二年三月_。義堂當驛_ニ至_ル。是京師_ニ赴_ク時_。日_工集_曰。三月三日_。發_相陽_送者_緇素_而還_之。永享十二年八月_。結城亂_ノ時_。今川上總介_。

ケレハ。結城ノ後詰ノ為ニ。馳參ルト申。文明十二
ケレハ。今川上總介。平塚ニ陣ヲ取ル。

年六月。太田持資入道道灌。上洛ノ時。此宿ニテ和

歌ヲ詠ス。平安紀行曰。平塚ニテ。アハレテウタカ世ノ

里。永祿十二年八月。武田信玄。小田原發向。當所ニ

陣ス。甲陽軍鑑曰。八月信玄公。小田原表へ御働ア

フツ前カハ酒勾迄寄。小田原記曰。信玄小田原ニ

寄。兩三月在陣。食ツマリケレハ。大磯平塚八幡

ヲ打過。天正十八年。小田原陣ニ。上杉景勝。此地ヨ

テ云々。歸國セシ事所見アリ。管窺武鑑曰。七月十日。小

州平塚ヲ立。七月下旬。慶安四年。當宿困窮ナルニ

會津ノ若松城へ着。依テ。平塚新宿ヲ以テ。宿内ニ加ヘラレ。役夫傳馬

等ハ勿論。都テ宿驛ニ與ル事ハ。本宿ト同ク勤メ

シメラル。宿ノ廣衰。新宿ヲ合テ。東西十九町五間

餘。南北二十四町餘。東馬入村。巽須賀村。南海。西淘

水川ニ限。山下村。及郡中徳延村。東海道往還ハ。東

北中原上下宿。南原村。良八幡村。西ニ貫ク。幅四間。尺ヨ。民戸二百八十九。多クハ

往還ノ左右ニ連住ス。宿ノ家並。本陣脇本陣。及旅

籠屋四十八二五等アリ。中十アリ。東海道ヨリ。北ニ

入ル脇往還アリ。田村道。幅六尺。永禄ノ頃ハ。太田大膳亮

知行ス。北條役帳。白太田大膳亮三貫文。平塚内平五屋鋪。按スルニ平五屋鋪。今詳ナラス。

御打入後御料所ニシテ今ニ然リ。檢地ハ寛文五

年。坪井次右衛門良充糾ス。又延寶二年。坪井良充

延享元年。齋藤喜六郎 新田ヲ改ム。

高札場

小石 上平塚町往還ヲ離レ。西ノ方ニ一區ヲナス。正保元禄ノ改ニ平塚宿ノ内。

上平塚村ト載ス。今ハ二十四軒町新宿ノ民廿全ク小谷トナレリ。二十四軒町ヨリ。東方ノ民

ル故ニ此十八軒町戸十八爰ニ移ル。依テ名ト唱アリ。

柳町 西仲町 東仲町

御林 中原御林ト稱シ。都テ十六所。中原上下二

宿。及當所本宿新宿入會地ニアリ。事ハ中原上

宿ノ條ニ詳載ス。

秣場 西方花水川ノ兩岸ニ在。永錢ヲ貢ス。此所

大磯宿郡。陶綾ノ接地ニシテ。唐カ原大磯ノ宿屬ノ内ナ

リト云。

海 南方ニアリ。渙船四艘。船役永錢ヲ貢ス。地曳網ヲ以

テ渙ス。獲ル所鱻鯖鱒等ナリ。

花水川 西境ヲ流ル。幅十三間ヨリ。南原村ニテ。十五間ニ至ル。

新川ト稱スル。川筋ナリ。宿ノ乾ノ方山下。郡洵綾

屬。徳延村等ノ境ニテ。金目川玉川ノ。兩新川落

合ヒ。是ヨリ花水川ノ名アリ。流末海ニ注ス。堤

二所アリ。高九尺ヨリ。一丈二尺ニ。但此川、モト至ル。一ハ控堤ナリ。高同。

ハ今ノ流ヨリ。少ク南ニアリシカ。水流不便ナ

ル故。寶永六年。掘改メラル。古ノ川蹟。今ニ細流

幅一アリ。古花水川ト呼フ。末ハ丸池ニ入。夫ヨ

リ花水川ニ沃ク。土橋一。古花水川ニ架ス。長六間。

池三 一ハ達上古池。太無之夜宇布留伊計。一達上ハ所在ノ字ナリ。

ハ達上新池ト呼。共ニ南原村ニ跨リテアリ。詳ナ

ル事ハ。南原村堤花水川堤ニテ築水溢ニ備フ。條ニ見タリ。堤續ク高同。

一ハ丸池廣一ト呼フ。南方ニアリ。

問屋場二 一八二十四軒町ト東仲町ノ間ニア
 リ一八西仲町ニアリ。旬日ヲ以テ代リ勤ム。役
 夫驛馬ノ繼立ハ藤澤宿へ三里半。大磯宿へ二
 十七町ナリ。當宿定助郷。郡中四十四村。愛甲郡
 村ト云。是ハ沼目村。小名池端村ヲ。別村トレテ。
 數フル故ナリ。加助郷。郡中六村。愛甲郡十二村
 都テ十八。一万坪ノ地子ヲ免サレ。且毎年来三
 十二石四升ヲ賜ヒ。繼飛脚及問屋給米ニ宛ラ
 ル。繼飛脚給米二十五石
 四升。問屋給米七石

春日社 宿ノ鎮守ナリ。神躰木像。長一尺六寸。行基作。往古

ハ黒部宮ト號ス。建久二年。源賴朝馬入川橋供

養ノ為。當社勸請アリシ由。縁起ニ見エタリ。三

年八月。賴朝夫人平産ノ祈願トシテ。神馬ヲ納

メラル。東鑑曰。八月九日。御臺所御産氣。相摸國

平塚。範隆寺平塚。按スルニ。範慶安二年八月。社

隆寺ハ別當寺ノ舊號ナリ。領六石。舊ニ依テ寄附セラレ。御朱印ヲ賜フ例

祭六月十五日。隔年ニ神輿ヲ海邊ニ渡。古ハ社

ニ。舊社地ニテ神事アリ。

地東海道往還ヨリ六七町海岸ノ方。字十軒坂
ニアリ。後今ノ地ニ移レリ。舊地ニ稻荷幣殿拜
殿神輿堂等アリ。

鐘樓 寶曆五年。鑄造ノ鐘銘文アリヲ掛。

末社 稻荷瘡瘡神 妙儀 金毘羅

山王 天神

十王堂

別當廣藏寺 平塚山延命院ト號ス。古義真言

宗。洵綾郡大磯宿地福寺末古ハ範隆寺ト號ス。建久三年

八月。頼朝夫人安産ノ為。誦經ヲ命ヒシ事。東

鑑ニ見ユ。其文本社ノ條ニ載ス今ノ寺號ニ改メシ年

代詳ナラス。本尊地藏。

梵天社 小名上平塚町ノ鎮守ナリ。神躰木像。相

殿ニ八幡春日二座ヲ祀ル。本地佛藥師。寶積院境内ニ

安ス。堂領ヲ例祭六月十一日。寶積院持。下同

鐘樓 寛政三年。鑄造ノ鐘ヲ掛。

末社 神明 山王 疱瘡神

八王子社 毎年四月十七日當社ニテ 東照宮

へ。神酒供物等ヲ獻ス其御由緒詳ナラス。此邊

御放鷹ノ時御休息ナト。アラセラレシ地ナラ

シト云。安永七年御神號ヲ末
札ニ書シ安置シ奉ル。

末社 稻荷

天神社 神躰未像。藥師院持。下七社同。

末社 山王

王子社

五靈社

八幡宮

諏訪社

風神社

山神社

稻荷社

阿彌陀寺

報恩山來迎院ト號ス。淨土宗。鎌倉光
明寺末。

開山雲公。建蓮社起譽。文祿二年三月十四日卒。開基府川出雲守

吉種。弘治三年十月二十八日卒。法名道順。按事蹟詳ナラス。今子孫農民ニアリ。

ルニ東浦賀三浦郡屬。兼誓寺傳ニ曾我十郎祐成ノ

子。河津三郎信之。親鸞ノ弟子トナリ了源ト稱

ス。安貞元年。平塚庄ニ一寺ヲ建立シ。阿彌陀寺

ト號ス。文明年中。叡山ノ衆徒。大谷祖廟破却ノ

時。阿彌陀寺ノ住僧空淨。碩學ノ聞エアルヲ以

テ。其寺ヲモ破却スヘキ由。風聞アリ。故ニ空淨

寺ヲ捨テ。東浦賀ニ奔レリ。其後阿彌陀寺ヲ淨

土宗ニ改メ。今ニ存ス。ト云。是ニ據レハ。起立ハ

舊キ事ナレト。今當寺ニハ。改宗後ノ事ノミ傳

ヘタリ。天正十九年十一月。寺領十石ノ御朱印。

且境内制札ヲ賜ヘリ。曰。軍勢甲乙人。盍妨狼藉

火之事。附山林竹木。猥不可切取之事。對寺僧門

前之輩。非分之儀。申掛之事。右之條々。令停止畢。

若於違犯之族者。忽可被處重科者也。天正十本

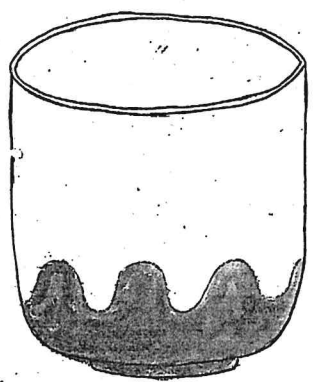
尊阿彌陀。長三又三寸。運慶作。今住持ナクシテ。藤澤常光

寺兼帶ス。

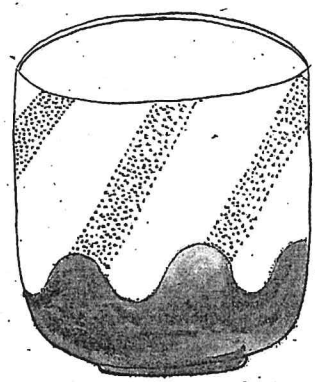
寺寶

御茶椀二口

高二寸深一寸七分
内真鍮徑二寸六分餘



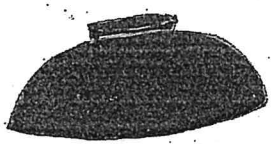
高二寸九分餘深一寸七分
外村梨子地内木地徑二寸六分餘



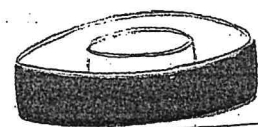
御茶



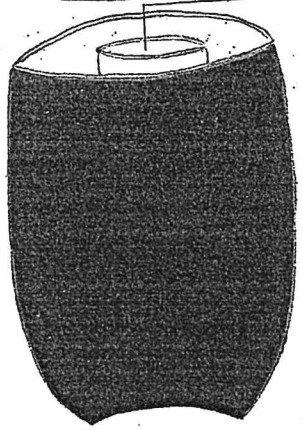
内ノ蓋

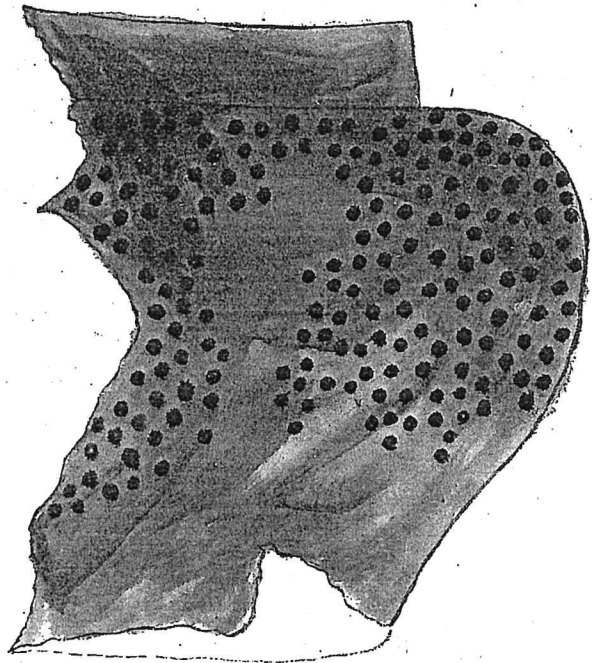


カケ子



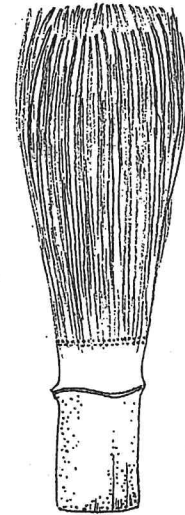
此所御茶筌入

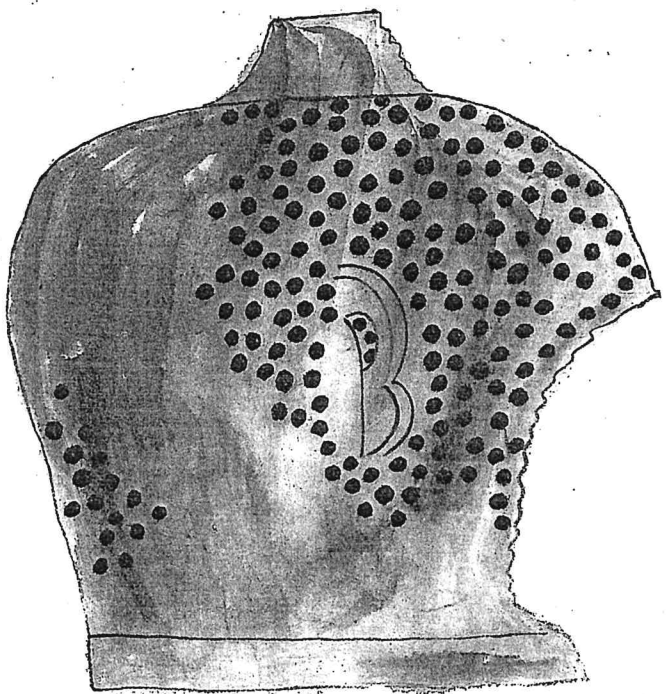




茶筴
ニ
糺
リ
テ
撰
ス

御茶筴
班竹ニテ
作レリ





以上四品。東照宮此邊御放鷹ノ時。當寺

ニテ。御茶ヲ召上ラレ。其器ヲ賜リシト傳

フ。

鐘樓 享保十二年。鑄造ノ鐘ヲ掛。

稻荷社

府川氏墓 碑面ニ府川出雲守吉種内方祭娑弘治

三丁巳年十月二十八日。息男子源太郎トア

リ。按スルニ。寺傳ニ。開基吉種ノ墓ナリト云。サレト。内方祭娑ト彫タレハ。其室ノ墓ナ

寶積院 醫王山東福寺ト號ス。天台宗。土屋村大衆院末

本尊地藏。

稻荷社

辨財天社

藥師堂 宿内梵天社ノ。本地佛ヲ安ス。慶安二

年八月三日。三石五斗ノ。堂領ヲ附セラレ。御

朱印ヲ賜ス。

觀音堂

藥師院 清水山醫王寺ト號ス。古義真言宗。足柄下郡

國府津村。寶開山日譽。慶安五年三月。寶曆年中。

義仙中興ス。安永九年正月十五日卒。本尊藥師。長二尺五寸。春日作。外

ニ愛染觀音ノ畫像二幅。弘法筆。釋迦ノ像。古佛ヲ置。

金毘羅社 稻荷社

寶善院 福生山能滿寺ト號ス。本寺前中興開山

聖金。辛年詳ナラス。貞享ノ頃住持ナリト云。本尊不動寺寶ニ玉一

願アリ。明星王ト稱ス。
傳來詳ナラス。

天王社 稻荷社 天神社

虚空藏堂

要法寺 松雲山ト號ス。法華宗。身延久遠寺ホ此寺地ハ。

古平塚左衛門尉恭知入道松雲寺傳ニ恭知ハ北條恭時ノ二

男ナリト云。サレト大ノ宅地ニテ。弘安五年九月十六日。宗祖日蓮。此宅ニ止宿シ。說法ヒシ舊蹟ナリ。松雲モトヨリ。當宗歸依ノ人ナレハ。宅

地ヲ日蓮ニ與ヘテ。當寺ヲ起立セリ。故ニ日蓮

ヲ開山トス。中興開山日新。慈雲院ト號ス。文祿元年八月十一日卒。

慶安二年八月。先規ニ因テ。寺領八石ノ御朱印

ヲ賜ク。本尊三寶諸尊ヲ置

七面社

鐘樓

鐘ハ。寶曆二年鑄造シテ。神寶トセシ

由。銘文ニ載ス。

稻荷社 天神社 鬼子母神社

塚 七面社ノ邊ニ在。高五尺許。上ニ松樹ニ圍一株

アリ。土人ノ傳ニ高見王ノ子政子ノ塚ニテ

地名ノ起ル所是ナリト云。

妙安寺 顯應山ト號ス。本寺前開山日在。顯應院ト號ス。

明曆二年九月十九日辛。本尊三寶ヲ置。

教善寺 永海山妙音院ト號ス。時宗藤澤清淨開

山本寺二世真教元應元年正月廿日辛。本尊正觀音建治三年

海中出現ノ像ト云。

觀音堂 松風菴ト號ス。藥師院持。

阿彌陀堂 阿彌陀寺持。

地藏堂 寶善院持。

神事舞太夫二戸 鶴若孫藤次。古家市太夫ト稱

シ。江戸淺草。田村八太夫配下ナリ。共ニ鶴岡八

幡祭禮ノ時。社役ヲ勤ム。鶴岡ヨリ毎年孫藤次

カ祖先モ孫藤次ト稱シ。建久二年。右大将頼朝

ヨリ當國中神事舞太夫人。司ヲ命セラレ。家藏文書

曰。相州平塚ノ大夫。可為八郡之大夫之司也。仍如件。建久貳年十一月日。頼朝袖判。又曰。相州八郡居内者共事。引御代之例。可為國方之成敗。以下七道者共事者。可為居内計。若於彼等。指手打擲之輩者。引御代之法。其沙汰可有之者也。仍如件。建久貳年十一月日。北條四郎時正華押。景時華押。按スルニ。此二通。料紙墨色。古代ノ物ト見ユレト。其文ニ於ハ。共ニ疑フヘキ物ナリ。子

孫ニ至リ。永享五年。足利持氏。又其事ヲ命ス。鶴曰

岡八幡宮。役者之舞々太夫。相州八郡之舞々。可為頭。仍如件。永享五年癸寅霜月三日。持氏袖判。按スルニ。永享五年。小田原北條氏東中二郡へ出年ハ癸丑ナリ。

令造立者也。仍如件。天文七年戊戌九月三日。東郡中郡。虎朱印。此文書傳來ノ故ヲ知ラス。

平塚城蹟 其地詳ナラス。永享十二年。大森伊豆

守 當城ニ在テ。野州結城城ノ。後詰ヲナサ

ント議スル由。鎌倉ニ聞エケレハ。今川上總介

範忠蒲原播磨守 等ヲシテ。當所及國府津

邊ニ陣取テ。是ヲ押ヘシム。故ニ大森其事ヲ果

サス。鎌倉九代記曰。大森伊豆守ハ。箱根ノ別當ニ敵ヲ寄ナハ。後詰ヲ致シテ。打散ナント。用意スル由聞エケレハ。押ヘン為ニトテ。今川上總

介ニ二千餘騎ヲ相添テ。平塚ニ向ラレ。蒲原播磨守ニ一千五百餘騎ヲ相添テ。國府津ノ道場ニ陣ヲ居サセラレシカハ。前後ノ敵ニ押ヘラレテ。大森サシモ手ヲ握リ。齒カミヲスレトモ。頭ヲ出スヘキヤウモナシ。鎌倉大文明十年五草紙ニモ載ス。其文前ニ見エタリ。文明十年五月。太田道灌當城ヲ攻落ス。主將大森伊豆守箱根山ニ遁ル。鎌倉九代後記曰。五月五日。道灌相州平塚ノ城ヲ攻落ス。鎌倉九代記曰。五月五日。相州平塚ノ城ニ楯籠ル。大森伊豆守退治ノ夕メ。道灌馳向一日ノ内ニ責落ス。大森ハ城ヲノカレ出。其後廢ヒシ年代テ。管根ノ奥ニ逃隠レタリ。詳ナラス。

三浦遠江入道定可居蹟 此人遁世ノ後當所ニ

テ卒セシ由。平安紀行ニ見エタリ。曰。此ヒラツニテ。ソノカミ三浦遠江入道定可世ヲ遁レテ。身マカリシト云傳フハカリニテ。シレルモノナカリケリ。按スルニ。一本ニ。ヒラツカヲカタヒラニ作ル。惟子ハ。武州橘樹郡。程ケ谷宿ノ属ナリ。紀行ノ次序ニ據按スルニ。文明ノ頃既ニレハ。當所ナルヘシ。其居蹟知レル人ナキ由ナレハ。今ハ尋ルニ由ナシ。

遊女夜叉王居蹟 其地詳ナラス。夜叉王ハ。當所

ノ遊女ニテ。宮内判官家長カ妾トナル。大磯ノ
 虎カ母ナリ。重須本曾我物語曰。申彼虎遊君母。
 誅惡右衛門督信賴卿舎兄。民部推少輔基成。被
 流奥州平泉人。御乳母子云。宮内判官蒙長人娘。
 其故此人依平治逆亂謀叛。有兼都内落下東國
 鎌倉方相摸國住人云。海老名權守季貞人。都有
 芳心事間。憑其宿所居程。成年來。平塚宿
 云。夜双玉通傾城許程。儲女子一人云々。

平塚新宿比良都可 本宿ノ東ニ續タリ。此地ハ

慶安四年。八幡村ヲ割キテ。本宿ニ加ヘラレ。宿驛

ノ事ヲ勤メシメラル。貢税等其地ニ係ル事ハ。才

テハ與サレハ。當時ハ八幡新宿。或ハ新宿村ト稱

ス。今ノ唱ヘニ改メシ。年代詳ナラス。按スルニ。正

幡新宿。寛文五年ノ水帳。及元禄國圖ハ。新宿村ト

載ヒ。元禄十六年ノ割付ノ書ニ始テ。今ノ唱ヲ記

リ。八幡庄ニ属ヒリ。東海道ハ。東西ニ通シ。其左右

ニ。民戸百十九。内二十四戸ハ。連住ス。家並長四町

本宿ニ住ス。五十七間。

脇往還二條アリ。一ハ厚木。愛甲郡八王子。武州道幅一

同。一ハ大山。及曾屋村邊へノ道。八幡社大門ヨリ

中ニテ。歧路トナリ。右ハナリ。古ヨリ御料所ニテ。

大山。左ハ曾屋道ナリ。

檢地ハ。寛文五年。坪井治右衛門良充改ム。新田ハ。十二年。坪井良充。寶曆九年。志村多宮。糾ヒリ。

又文政三年。江川太郎左衛門英毅見取屋鋪ノ段

別ヲ改ム。毎年十二月廿五日。八幡社大門ヨリ。海

道中ニ市立リ。歳首ニ用ユル。諸物ヲ鬻クヲ以テ。

飴市ト稱ス。

小名 西町 東町

御林 中原御林ナリ。中原上宿條ニ詳載ス。

海 南方ニアリ。

八幡社 當宿及八幡馬入。三村ノ鎮守ナリ。祭神

應神天皇。神躰神秘。前立ノ像アリ。長左ニ香推

明神。古ハ別社アリ。今境内龜甲。右ニ高良明神

是ニ境内。九山ノヲ配祀ス。本地佛阿彌陀。別當寺本

尊ナ 當社ハ。當國第五ノ宮。古ヨリ八幡宮ト稱シテ。五宮ノ唱ハナリ。
シ。按スルニ。東鑑ニモ。四宮ノ次ニ。八幡宮ト載ス。又一宮以下祭禮ノ時。神輿ヲ列スル次序モ。當社第五ニアリ。一宮ハ高座郡宮山村。二宮ハ淘綾郡山西村。三宮ハ郡中三之宮村。四宮ハ四宮村ニナリ。社傳ニ。神龜年中。諸國一宮へ。法華アリ。經ヲ納メラレシ時。當社へモ。納メ給ヒシト云。

建久三年八月。源頼朝神馬ヲ奉ラル。是夫人安

産ノ祈願ニ依テナリ。東鑑曰。八月九日。御臺所

神馬被修誦經云々。八幡宮。按スルニ。四ノ宮ノ次ニ。八幡宮ト載ヒタルハ。當社タル事論ナシ。

文明十八年。道興准后社参アリテ。和歌ヲ詠ス。

田國雜記曰。八幡トイヘル里ニ神社アリ。法施

ノ次ニ。梓弓ヤハマヲ爰ニヌカツキ又。春ハ惠

待ミム。天正十九年十一月。先規ニ因テ。社領五

十石ヲ賜フ。年中祭事ハ。正月十五日。筒粥。二月

初卯日。五月五日。淘綾郡國府本郷村。神揃山へ。

テ後歸座。七月七日。八月十五日。宿内海邊迄。十

一月初卯日等ナリ。社地ノサマ。東海道往還北

側ニ。銅鳥居鶴峯山アリ。是ヨリ大門ニシテ。百

七十間許入テ。小橋ヲ渡リ。又少ク行テ池アリ。
反橋~~橋~~ヲ架ス。爰ニ王門建リ。是ヲ入。少許ノ
石階ヲ登テ。社前ニ至ル。幣殿拜殿等アリ。又東
海道ノ南側ニ濱大門ト唱フルアリ。長八十
二間餘。

神寶

太刀一振 無銘。長三尺
二寸五分。

刀一口 無銘。長二
尺八寸。

大般若經全部

鐘樓 寛永十九年鑄造ノ鐘ナリ。銘文アレト。

考證ニ益ナシ。

東照宮 御神躰幣束。

末社 若宮八幡 神明 天神 諏訪 辨天

愛染 第六天 浅間 荒神 客人

稻荷二

松樹 神木ナリ。圓一丈。又摸ノ老樹 圓一丈。三尺餘。一尺餘。

供所

二玉門

別當等覺院 鶴峯山成事智寺ト號ス。古義真

言宗。京東寺寶關東擅林三十四院ノ一ナリ。

關山開基詳ナラス。舊クヨリ當社別當ニシ

テ。等覺寺ト號ス。然ルニ。慶長十四年。八幡村

ヨリ成事智院ト號ヒシ。一寺ヲ引移シ。其號

ヲ以テ當寺ノ號トシ。舊號等覺寺ヲハ。末寺

ノ號トヒシ由。所藏ノ文書ニ見エタリ。曰。相

箇寺隨一之成事智院引以為斯地之寺。然者

自今以後永指此八幡別當坊號為成事智院

者也。又以前之寺名等覺寺。而可為當院之

末寺也。仍所定如件。慶長十四年己酉十一月

吉祥日。金剛峯寺遍照光院。□□華押。此其後

外正保五年ノ證文ニ通アリ。今畧ス。其後

ニケ寺合テ。今ノ如。寺院號ヲ唱フルナルヘ

シト云サレト其傳ハ失ヘリ。按スルニ寶

二。等覺院ヲ成事智院ヨ中興開山寶雄。慶長

リ。兼帶ヒシ由見エタリ。十年

大山八大坊ニ轉住。元本尊不動。境内ニ本地

和四年二月二日辛。

學アリシカ。破壊也。故。今客殿ニ安ス。社領

ノ内。二十六石五斗配當セリ

稻荷社。境内鎮守ナリ。此社覆屋ノ内ニ八

幡。金毘羅。愛宕。秋葉等ノ。小祠ヲ置リ。

供僧光圓坊。中興開山周榮。寛文五年卒。本尊大

ノ内。一石五斗。配當ス。下。同。泉藏院。八幡村ニ住ス。其村

蓮光寺。馬入村ニ住ス。下。同。高福寺。光明院。當所

廢ス。今

社人十人。社領ノ内。各一。舍人八人。各五斗

山神社。晴雲寺持。

神明社。修驗大光院持。

蛭子社。神躰木像。相殿ニ船玉明神ヲ祀ル。農民

持。

末社。稻荷

晴雲寺。松風山。光照院。卜號ス。浄土宗。須賀村。智

開山晴雲。真蓮社。寶譽卜號ス。寛天正中起立ス。

永六年五月六日辛。

本尊阿彌陀。長二尺四寸。惠心作。

稻荷社

觀音堂 正觀音船越觀音。稱ス。弘法作。長一尺五寸。海中出現ノ像。下云。

ヲ置。

大光院 天神坊下號ス。當山修驗。山城國醍醐。弘

治元年起立。下云。本尊不動。

金毘羅社

神事舞太夫二伊 古家卯左衛門。同藤藏下稱シ。

共ニ江戸淺草。田村八太夫配下ナリ。

德延村止久能 鎌倉大草紙ハ 德宣卜書ス 其

下ニ 江戸ヨリ十六里 民戸三十二 東西十二町半

南北十三町餘 東金目川ニ限 南原村 西河内 永享

十二年八月 結城亂ノ時 上杉修理亮持朝當所ニ

陣取 鎌倉大草紙曰 八月相州警固ノ為ニ 上杉 永

正十七年二月 北條氏綱當所ヲ走 湯山神領ニ寄

附 不 走湯山文書曰 相州中邦德郷 為御神領 奉納

ハ 山衆徒中 氏綱華押 按スルニ 邦八郡ノ訛ナリ 德郷永

延ノ 字ヲ脱セシナラン 蓋傳寫ノ訛ナリ

祿ノ頃玉。伊豆山領ナリ。役帳曰。伊豆山領。四十

徳又天正ノ頃。村内ニ早川村足柄下久翁寺領ア

リ。天正十七年七月。北條氏ノ文書ニ引用ス。其地ヲ河井

分ト稱セシカ。後松延村ニ屬シ。同村ノ飛地トナ

リ。其年代傳ハラス。今モ字河井ト稱ス。地頭ハ白須甲斐

守政徳ナリ。古ヨリ御料所。文化八年。檢地ハ寛文

六年。坪井次右衛門良充糾ス。新田ハ寛保三年十

月。齋藤喜六郎カ繩入ナリ。北方村境ニ波多

野道係レリ。幅一尺。鎌倉古道ナリト云傳フ。

高札場

金目川 村東ヲ流ル。幅二十間餘。堤二所。一ハ高一丈

堤高アリ。外ニ境堤ト唱フル小堤アリ。

雷電社 村ノ鎮守ナリ。神躰木像。長一尺二寸。牛頭天

王山王ヲ相殿トス。例祭六月十五日。社領三石

ノ御朱印ハ慶安二年八月賜ヘリ。社地ニ神木

ト稱スル。松樹十株アリ。

鐘樓 文政十年鑄造ノ鐘ヲ掛。

末社 庖瘡神 諏訪 第六天

別當明王院 德龍山延壽寺ト號ス。天台宗。東

山開山旭澎。永正七年四月十日卒。本尊正觀音。天文四年

年十一月北條氏ヨリ寺中ノ制札ヲ與フ。制曰。

扎。明王院。此於寺中竹木切取。不可致狼籍者也。天文四年乙未十一月廿六日。虎朱印アリ

寺領五石八。慶安二年八月社領ト一紙ノ御

朱印ヲ賜ク。

稻荷社

彌陀堂 境外ニ除地アレト。暫ク爰ニ移シ

置ト云。

神明社 明王院持。下同。

水神社

地藏堂

朝氏村

止毛字 慈年良

中古ハ友牛ト書シ。止毛字慈ト

唱ヘシヲ。享和三年復古シテ。今ノ如ク書ス。按ス

北條役帳。及正保元祿圖。皆友牛ノ字ヲ蓋朝氏ト
用ニ古ク朝氏ト記セシ物ハ所見ナシ。蓋朝氏ト
云シ人ナラシ。墳墓ノ地村内藥王タルヲ以テ。

此名起リシト云。北條氏割據ノ頃ハ。平川左衛門

知行ス。役帳曰。平川左衛門二十二貫四今地頭堀

三五郎。元祿七年ナリ。檢地ハ。寛文五年。坪井

次右衛門良充。糺ス。江戸ヨリ十五里半。民戸七。東

西五町。南北二町餘。東南原村。西久松村。南德延村。

水災ニ罹リ。村内多ク荒地トナリシカ。享保七年。

官ヨリ金百五十兩ヲ賜リ。再開カシメラル。

金目川 東界ヲ流ル。幅二間。堤二所。共ニ高アリ。

牛頭天王社 村鎮守トス。神躰圓石。例祭六月七

日。神明熊野ヲ相殿トス。村持。

藥王寺 光明山不斷院ト號ス。淨土宗。芝増上本

尊彌陀。運慶作。長四尺四寸。惠心作。長二尺六寸。前立ノ像アリ。又傍

ニ藥師。惠心作。長一尺四寸。地藏。行基作。長一尺六寸。ヲ安ス。開山惠

阿轉光。延久三年七月八日辛。中興開山團立。光蓮社。明譽

十二年九月開基ハ朝氏トノミ傳ヘテ。姓氏年代

月三日辛。詳ナラス。按スルニ。諸家ニ朝氏ト稱ヒシ人多ク

但新田次郎太郎朝氏カ氏族新田下野守賴有。

郡中長持郷ヲ領ス。其地ハ。今隣村ナレハ。此朝

氏少ク因ミアルニ似タリ。サレトモ其墳墓ハ。上

野國新田郡別所村圓福寺ニ在。碑面ニ沙彌道

義。七十二歳。元亨四年六月十一日ト彫ル。猶考フヘシ。

山王社

開基朝氏墓

二基

共六尺餘

アリ。文字ナシ。何レ

カ朝氏ノ墳墓タルヲ知ラス。享保中。村内荒

金ヲ賜リシ事。朝氏カ墳墓ノ地タル。故ナラ

ントテ。土人二月十七日ヲ忌日トシテ。氏神

ニ等シク尊敬ス。此日ハ金ヲ賜ハ此他古碑

ルヘキ由。初テ命セラレシ日ナリ。二基ハ五輪塔ナリ。一アリ。

久松村

比佐赤津年良

江戸ヨリ十五里餘。家數七。東西

南北共三町餘。

東朝氏長持二村。西公所村。南北

條氏分國ノ頃ハ。矢部修理亮知行ス。役帳曰。四

矢部修。今白須甲斐守政徳。松平大和守矩典領ト

甲斐守政。雍石原鐵五郎。田中鎗次郎。共

正徳年間ノ采邑ナリ。檢地ハ。延寶二年。成瀬五左

衛門重治糺ス。

高扎場

堤 金目川控堤ナリ。高六尺。

牛頭天王社 村ノ鎮守ナリ。例祭六月七日村持

浄安寺 久松山下號ス。浄土宗。松延村宗源寺末 開山亮

譽惠音。港蓮社ト號ス。 本尊彌陀
承應元年卒。

松延村 未津乃不牟良 江戸ヨリ十六里。民戸四。東西一

町餘南北六町。東德延村。西河内。根坂間。公北條氏

ノ頃ハ。太田大膳亮知行ス。役帳曰。太田大膳亮。十

今地頭岡部小左衛門忠安。御料タリシヲ。寶曆十

忠興拜賜ス。 ナリ。檢地ハ。寛文六年。坪井治右衛門良充

糾ス。村北ニ小徑。鎌倉往繩 在。村ノ飛地。南原德延。

朝氏三村ニ接シテ在。廣廿四間。 字河井ト唱フ。按

ルニ。此地ハ。倭名鈔ニ載スル。川相郷ノ 古ハ德延
遺名ニシテ。文字ハ後世。改メシナラシ。

村ニ属シ。久翁寺足柄下郡。早ノ領ナリ。久翁寺藏

郡徳延之内。河井分。五貫三百文之地。如先證文。無相違。可被拘置候。諸公事等。不可有之候。仍如件。天正十七年巳丑。七月三日。久翁寺。關與一奉之。虎朱印。村内ニ属セシ。年代シ

知ラス。

高扎場

金目川 飛地ノ東境ヲ流ル。幅十間。堤二所。一丈。一ハ。高

ハ。控堤。高八尺。高アリ。

第六天社 村鎮守ナリ。例祭九月廿九日。宗源寺

持。下同

辨天社

神明社

歳徳神社

宗源寺 松延山信樂院ト號ス。浄土宗。芝増上寺末開

山本譽了廓。尊蓮社。元和三年。中興浄譽源流。嚴

社。正徳五年。五月。開基。信譽樂清宗源。天文九年。七月。廿九日。辛。村民ニテ。今ニ子孫アリ。按スルニ。門下稱セシ。村。年七十餘年。隔ソ。恐クハ。宗源。開山。開基ノ年。七十餘年。隔ソ。恐クハ。宗源。

死後其菩提ノ為造立シテ。本尊彌陀。聖徳太子
即チ開基トセシナラン。作長三尺
寸三

愛宕社 境内鎮守ナリ

根坂間村

補佐堀
末年良

江戸ヨリ十六里。坂間郷ニ属

ス。當村公所河内ノ三村ハ。元一村ナリシヲ。何ノ

頃カ分村ス。正保國圖三村按スルニ。元曆至徳等

ノ古文書其文下ニ註ス。中坂間郷。西坂間郷ナト載セ

タルハ。徃古ヨリ。一郷ヲ三區トシ。東西中ヲ以テ。

別稱セシナリ。後世分村セシモ。此區別ニヨリシ

ナラン。然ラハ當村ハ。中坂間ニシテ。河内村ハ東。

公所村ハ。西ト唱ヘシナルヘシ。此三村ノ地。錯雜

シテ。廣長四隣。每村ニ辨シ難ケレハ。爰ニ合記ス。
東西凡十四町半。南北十六町許。東德延。松延。久松。三村。西千須谷。上。
下吉澤三村。南淘綾郡出繩萬田山。但村民居住ノ
下三村。北本郡。廣川。長持入部二村。
地ハ。自カラ分テリ。其東西一町。南北五町。民戸四

十七。元曆元年六月。賴朝當郷ノ内。若宮ノ相撰新

三郎家真カ。給田ノ諸役ヲ免除ス。鶴岡社人金子

相撰國中坂間郷。可早免除。若宮相撰字新三郎家

真。給田畑在家等事。田壹町。畠壹町。在家一宇。右件

給田畑在家免除畢。地頭名主等。不可煩之。狀如件。

壽永三年六月三日。賴朝袖判。按スルニ。此年元曆

ト改元。至德四年八月。藤原政弘。清原末房等カ沙

アリ。汰下シテ。郷中ノ田畠ヲ以テ。西方寺所在詳ナラ

ナラ。料所地ニ充ツ。南金目村光明寺藏文書曰。御

負數事。坂間太郎左衛門尉蹟。田一町五段。畠半分。

後藤佐渡彦太郎蹟。田三町。畠一町。水本次郎入道

蹟。田五段大。畠二段半。坂間次郎兵衛尉蹟。田參段

半。畠一段半。遠山加藤孫八蹟。田一町五段。畠半分。

以上半分。右任御書下并御目錄之旨。茲彼所相共

沙汰。付下地於西方寺雜掌候畢。仍渡之。狀如件。至

德四年八月十七日。藤原政弘在判。清原末房在判。

按スルニ。西坂間郷トアレハ。此一通ハ公所村ニ

係リシ物ナシ。此村ノ條ニ載ス。嘉慶二年八月。足利

證ナケレハ。此村ノ條ニ載ス。嘉慶二年八月。足利

左兵衛督氏滿。南金目村。觀音堂境内。聖天供料所。

寄入。同寺文書曰。寄進光明寺。相模國坂間郷内。料所地事。右四季為聖天供料所。寄附之狀。

如件。嘉慶二年八月廿八日。左兵衛督源朝臣華押。按スル。光明寺。寄進ス。ト。ア。レ。ト。聖天社。今觀。

音堂境内。即。天正七年五月。小田原城内。備。光明寺別當也。

曲輪座鋪塀等。修理ノ時。煤谷村ノ屬。山造ノ口。養錢ヲ。當村年貢中ヨリ。出セ。之事所見アリ。煤谷

所藏文書畧曰。御備曲輪御座鋪。并塀材木云々。山。造口。養四貫七百九文。坂間郷寅歲年貢。秩父前ヨ

リ可出云々。天正七年巳卯。五月廿六日。山奉行。坂。倉代井上代。安藤豊前奉。虎朱印。全文ハ。同村條。

見エ。北條役帳ニ。代官所。曰。五十貫文。中郡坂間内。夕リ。北條。大藤源七郎。於御代官所。

内被下間。知。及成瀬某カ知行。曰。二十貫。六十五文。行役除之。

成瀬。按スル。大文字ハ。大門寺ニ。テ。村内。寶。高麗。珠院ノ。寺號ナル。ハ。シ。小名ニ。七。大門寺アリ。

寺領。曰。高麗寺領。五十貫七百七十七文。中郡坂間。寺。伏。按スル。高麗寺ハ。淘綾郡高麗寺村ニ。

ア。等ナリ。由見エ。今米倉丹後守昌壽領分。元。禄。一。年。拜ナリ。檢地ハ。寛文五年。坪井治右衛門良充。紀。

賜。伊勢原道係ル。幅九。尺。

高扎場

小名 大門寺 叶屋 根岸 北

坂 西方ニ在。登一町半。

清水 小名叶屋ニ湧出ス。幅三尺。

八劔明神社 村ノ鎮守ナリ。古ハ胡宮明神ト唱

フ。寛永八年十一月ノ棟札ニモシカ記セリ。寶永四年今ノ神號ニ

改ムト云。例祭正月九月共ニ七日ナリ。拜殿アリ。

鐘樓 鐘ハ文政元年再鑄ナリ。

山王社 村持下同

子神社

牛頭天王社 村民持。

飯綱社 寶珠院持下同。

神明社

寶珠院 朝光山大門寺 此寺號元別寺ノ號ナリ。其寺永仁ノ頃廢セシ後

當院ノ寺號トセリト云。按スルニ境内大日堂ニ。寛永十六年ノ鰐口ニ口共ニ朝光山大門寺ト彫ル。當時ハ寺號ト號ス。天台宗。村。莊。嚴。寺。末ヲ通稱トセシカ。

古ハ門徒タリシカ。寛文二年末寺トナレリ。當時本寺ヨリノ許状ニ累代ノ舊蹟タルニ因テ。寛文二年三月十五日改テ本尊三尊彌陀。中尊末寺ニ改補スル由ヲ記ス。共ニ聖徳太子作。尺五寸八分。脇士長二尺五寸。今其所ヲ字シテ。村内石礮中ヨリ出現ス。ト云。今其所ヲ字シテ。虚通堂又彌陀開山慶順。建久元年十二月十八日辛。中興行。海。享保十六年寺領十二石ノ御朱印ハ慶安二年八月賜ハレリ。

鐘樓 鐘ハ寛永中初ヲ鑄造シ。享保十五年再鑄ス。

大日堂 本尊銅佛。長五寸弘法作。寛永七年大門寺廢

蹟ヨリ出現セシニヨリ。則境内ニ堂ヲ營ミ。

安置ス。ト云。出現ノ地ハ字。又不動智證作ノ

トス。毘沙門院開山ヨリ廿六代迄。當ヲ相殿ト

ス。寛永十六年寄納ノ鰯口。二口ヲ掛ク。ハ奉

寄進諸願成就所。相換國大住郡根坂間村。朝

光山大門寺。寛永十六巳卯二月吉日。施主長

持村。田中喜八郎妻。大工千津嶋。石塚五郎。右

衛門重次。一八同年十一月ノ寄附。其文上ニ

同シク。田嶋長左衛門ト刻ス。

大工田嶋長左衛門ト刻ス。

青柳院 瀧見山觀音寺ト號ス。本寺前本尊大日。

長三尺二寸。傍ニ三尊彌陀ヲ置。長一尺。脇士四寸五分。共ニ惠

惠心作下同。天慶二年。僧安詳ノ開闢ナリ。中興岑纂當寺

心作。五世。文政二年。慶安二年。寺領七石八斗。境内觀

音堂領二石七斗。合セテ十石五斗ノ御朱印ヲ

賜フ。御文中青揚院トアリ。揚柳訓讀同キ故ニ誤リシナルヘシ。

金毘羅社

觀音堂 瀧見觀音 春日作。長二尺。ヲ安セシカ。堂ハ破

壞シテ。未再建ヒス。下同。

地藏堂

阿彌陀堂 寶珠院持。

大門寺廢蹟 東方小名。大門寺ノ内ニ在。此寺永

仁ノ頃地震。按スルニ永仁元年四月。鎌倉大ニ地震セシ事アリ。此時ナルヘシ。

ニテ破壞シ。佛像等モ悉ク地中ニ埋リ。遂ニ廢

セリト云傳フ。寶珠院境内。大日堂ノ本尊ハ此

廢蹟ヨリ。掘得シモノナリ。今モ此所ヲ掘レハ。

銅鐵ノ佛具等ノ朽損セシ物出ルト云。

河内村 加波字 知年良 坂間郷ニ属ス。江戸ヨリ十六里

餘。家數廿九。當村ト根坂間。公所ノ三村。古ヘ一村

ナリシ事。及廣表四隣等ハ。前村ノ條ニ辨ス。村民

居住ノ地。凡東西南北。共ニ三町半。此村分村ノ後。

河内坂間村ト稱セシカ。後坂間ノ文字ヲ省ケリ。

其年代詳ナラス。但延寶二年檢地帳ニ河内村ト

アレト。元禄國圖ニハ。又河内坂間村ト載タリ。

今地頭奥村次左衛門 享保十九年。御料ノ高

井但馬守式房 殘ル御料ノ地ヲ先世等ナリ。檢地

拜賜ス。年代詳ナラス。

八。延寶二年。成瀬五左衛門重治紀ス。

高扎場二

小名 惡助 安人 須計 三、橋

神明社 村ノ鎮守トス。例祭九月十六日。長泉寺

持

稻荷社 村民持。

長泉寺 寶塔山見光院ト號ス。天台宗。淘綾郡高

寺門 中興開山秀淨。享保六年 本尊釋迦。

山王社

觀音堂 淘綾郡高根村。莊嚴寺持。

阿彌陀堂 長泉寺持。

公所村具楚年良坂間鄉按スルニ至徳四年ノ文書

地ノ事ナラシ。根坂間村ニ辨ス。又村内熊野社ニ

天正十九年ノ御朱印ニハ。下坂間郷ト記ナルニ

屬ス。古ハ公所坂間村ト唱ヘシカ。何ノ頃ヨリカ。

坂間ヲ省キ唱フト云。按スルニ正保國圖ニ。江戸

ヨリ十六里。民戸五十。分村ノ事ハ根坂間村條ニ

辨シ。且四境町數等モ。同村ノ條ニ合載ス。并見ル

ヘシ。但村民ノ住スル地ハ。東西凡五町半。南北二

町餘。今加藤源左衛門 大久保甚右衛門

飯田次郎 高麗榮竹

御入國後御料所。寛文三年ヨリ十二年

迄稻葉美濃守正則領シ。元禄十一年。知行ス。檢地ハ。年。其地ヲ割テ。加藤氏先世ニ賜フ。

寛文五年。稻葉美濃守正則改ム。南北ニ貫キテ。伊

勢原道係レリ。又東南ノ間ヨリ。入ル一路ヲ。鎌倉

往繩ト唱フ。共ニ幅九尺

高札場四

小石 郷東賀字。谷戸 堀之内 辻

溜井 村西アリ。長二十間。幅十六間。堤ヲ築キ。水溢ニ備

フ。

熊野社 村鎮守ナリ。神躰東帶木像。本地佛彌陀

ヲ置。祭祀正月三月ノ七日ニテ。三月ハ八劔明

神ト。隔年ニ執行ス。社領二石ノ御朱印ハ。天正

十九年十一月賜フ。慶安二年八月ノ御朱印ヨ

リ。八劔社領一石ヲ合セ。一紙トシテ賜ハレリ。

安樂寺持。下同。

八劔明神社

神躰石。

石ノ中央ニ劔ヲ彫リ。傍ニ奉納八劔大明神尊形。相州

公所村。寛文五六月吉日。端
宣山トアリ。長一尺六寸。祭禮熊野社ト同日
ニテ。三月ハ彼社ト。隔年ニ修行ス。社領一石。天
正十九年十一月。御朱印ヲ賜フ。後熊野社領ト
一紙ニ賜リシ事。前ニ記ス如シ。

鐘樓 鐘ハ。明和八年ノ鑄造ナリ。

末社 稻荷

天王神明合社

御嶽社 神躰石一顆ヲ置。村民持。下園。

八幡宮

天神社 神躰木像。

安樂寺 坂間山千手院ト號ス。天台宗。淘綾郡高根村莊嚴

寺。本尊地藏。

辨天社

万福寺 慈眼山光聚院ト號ス。前ト同寺。慶長十

三年。行圓開山ス。本尊彌陀。

阿彌陀堂 安樂寺持